第41号
2023.12
安心のオンライン医療通訳

medi-way 医療通訳だより

Medi-Way 医療通訳者紹介　Vol.24　中国語担当　淺田さん

◆なぜ医療通訳者になった？

私自身が病院を訪れる機会が多く、専門学校時代に医療通訳の授業を受けて、より一層興味を持ったことがきっかけです。授業を通じて、医療通訳の重要性を深く理解し、患者さんと医療スタッフの間で円滑なコミュニケーションを支援する医療通訳に魅力を感じました。また、自身の言語スキルを活用し、医療分野で役立つことができるという使命感に駆られました。

◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

患者さんが話したいことを全て医師に伝える手助けができた時、また、医療者の説明を患者さんがよく理解できた時が非常に嬉しい瞬間です。医学用語や複雑な治療計画を通訳し、患者さんが納得するまでは私も緊張感に包まれています。通訳の後に患者さんから感謝の言葉をいただけた時や、安心された笑顔を拝見した時、私も緊張が解け、とても充実した気持ちになります。このような瞬間、自分自身の仕事の意義を再確認し、医療現場のコミュニケーションをサポートする役割としてモチベーションを高めています。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

より正確に通訳できるよう心がけています。専門用語の理解と習得は言うまでもなく、医療のトピックスに精通することも必要です。

しかし、それだけでは足りません。感情やニュアンスを適切に伝えるために、表情、ジェスチャー、声の調子などの非言語コミュニケーションを敏感に捉え、言外の意味まで理解することで、誤解を回避することができます。そのような力を養うため、普段から日本語に敏感になるようにしています。

～「クリスマスケーキ？」～

街にはクリスマスの華やかなイルミネーションが輝く季節です。クリスマスと言えば「クリスマスケーキ」を選ぶ、または食べる楽しみは皆さん共通ですよね。

ペルー出身のスペイン語通訳者によると、クリスマスはケーキならぬ「パネトーネ」が一番の楽しみだそうです。正確には「パネトン」と呼ぶそうで、「パネトンがないとクリスマスじゃない！」というほどだとか。

一方、本国スペインでは「ロスコン・デ・レージェス」というリング状のケーキがあり、1月6日の三賢者の日に、子供たちはクリスマスプレゼントをもらい、このケーキを食べるそうです。ケーキの中には小さな王様の人形が一つだけ入っていて、その人形に当たった人は、その日は王様のようにふるまうことができるそうです。一日だけの王様、ちょっと夢がありますよね。

今月のトピックス

「英語通訳者はつらいよ！」

英語の通訳は英語を母語とする方以外に、英語がその人の第二、第三言語というケースがよくあります。インド、タイ、パキスタン、アラビア語圏やアフリカ諸国などに加え、最近はネパール、バングラデシュ出身の患者さんも増えています。本来なら母語の通訳者がベストでしょうが、英語ほど通訳者がいないため、「まあ、英語で…」となるようです。

悩ましいのは「お国なまり」の問題のみならず、ご家族は英語が話せても患者本人はあまり話せず、リレー通訳のようになってしまうケースです。例えば、患者である奥様がアラビア語で話す→ご主人が英語に訳す→通訳者が日本語に訳す、となる場合、時間は２倍３倍かかります。また、通訳の正確性をキープするためには更に労力も必要です。

他には「医師が母語ではない英語で話す」というケース。医師が英語で話されるので介入しなかったら、後で「英語で伝えるのはしんどいので、通訳さんにもっと通訳してもらいたかった…」と言われたことがあります。あらかじめ「基本的には医師が直接（英語または日本語で）やり取りをする」という情報があれば、「通訳が必要な時には声をかけてください」と伝えて備えることもできますが、なかなかそうもいきません。

英語通訳ならではの悩み…英語通訳者はつらいよ！のお話でした（^^;

株式会社 東和エンジニアリング
東和通訳センター　TEL: 06-6292-8568
□東和通訳センター　〒530-0015　大阪府大阪市北区中崎西4-2-27
e-mail:tic@towaeng.co.jp